

社会科授業案

日時 平成27年5月28日(木) 3校時

生徒 2年B組 男子17名 女子16名 計33名

授業場 2年B組教室

授業者 村瀬清史

1 単元名 「世界からみた日本のすがた」

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領の大項目「(2)日本の様々な地域」中の「イ 世界と比べた日本の地域的特色」にあたる。この大項目は、「世界の様々な地域」の学習成果を踏まえ、日本及び日本の諸地域の地域的特色をとらえる学習を通して、国土の認識を深めることをねらいとしており、この中項目では、世界的視野から日本を一つの地域として取り扱ったり、日本全体の視野から大まかな国内の地域差に着目させたりすることによって、我が国の国土の特色を理解させることを主なねらいとしている。

我が国は戦後70年を経過し、その間社会を取り巻く環境及び諸条件は急激に変化している。2011年3月11日に発生した東日本大震災は、今なお多くの爪痕を残しており、復興に向けた取り組みが進められているものの、未だに完全復興の見通しが立っていない状況にある。この震災により、特に防災やエネルギー政策における我が国の諸政策に重大な影響を与えている。また、急速に少子高齢化が進んでおり、人口減少社会が現実的なものとなっている。社会保障政策のみならず、産業政策など多方面に関わりのある問題となっている。

このように、我が国の国土は、世界的に見ても希有な特色を持つものであり、解決が求められている課題も多く、その方策を見いだしていくことが喫緊と課題となっている。また、本単元で学習する我が国の国土に対する認識を深めることは、これ以後に学習する日本の諸地域の学習や3年生での公民的分野の学習につながると考える。

以上のことより本単元は、近未来において、解決が必要かつ困難な追究させたい課題が多く含まれる。それとともに、新たな価値の創造を模索している現代社会において、本教科に求められている資質や能力を育成するために必要となる、自分自身のこれからの生活や生き方につながる多くの要素を含んでいると考えられる。

(2) 生徒観

省略

(3) 指導観

消極次元

【価値無記な知，技】

「社会的事実の事実認識のうち，社会的な事実を知っている段階。概念や価値として発展しない状態。」



積極次元

【価値の選好にかかわるような知，技】

「社会的事実の意味を理解し，関連づけ概念（理論）としてとらえ，科学的理論にもとづいた価値認識を行い，合理的意思決定をするなど，社会認識が深まっている状態。また，それらをもとに，合意形成をめざそうとしている段階。」

社会科の目標は，「社会認識を通して市民的資質を育成する」ことにある。社会科でめざす市民的資質の中核は，合理的意思決定する能力が高まるなど社会認識が深まることである。複雑化した社会問題に対して，公正に判断することができ，社会参画することが市民には求められている。そのためには，自らの価値観の反省的吟味が必要であり，地理学・歴史学をはじめとする社会諸科学の成果である科学的知識の習得は不可欠である。しかし，その段階にとどまっていたら，めざす市民的資質つまり，価値観の多様化・対立が顕著になって引き起こされる社会問題に対応できないばかりか，先行き不透明なこれからの社会に主体的に生きることはできない。

そのためには，それら社会的な事実を知っている段階の上に，価値観の正当性を判断する基準としての倫理的判断の習得が必要である。その上で価値判断させ，その正当性の根拠を自らの生き方に関わらせて制度のあり方を認識させることが，めざす生徒の姿に近づくものと思われる。

合理的意思決定の過程を組み込んだ単元構成 **A**

本授業では，単元を貫く学習課題を設定し，合理的意思決定の過程をもとに単元を構成する。社会科において合理的意思決定した姿とは，価値認識をもとに価値判断ができることである。そのためには，事実認識が図られていることが重要であり，そのうえで必要感を持たせて協働体的な学びにつなげ，学習課題の追究に向かわせたい。

価値判断させるために，社会的論争問題である「首都機能の移転」問題を取り上げる。この課題は生徒にとって，決して身近なものであるとは言えないが，本単元で学習する諸要素が含まれ，それらを結びつけて考えなければ，学習課題を追究することは困難である。価値判断をしたことに対して，多属性効用理論を用いて間主観的にとらえさせ，主観だけによる判断となることを避ける。そして，自らの価値認識を主張したり，あるいは修正を加えたりしながら，自らの社会認識や判断をより合理的なものへと変革させていく手立てをとる。最終的には，自らの判断したことが，合理的意思決定となりえていたかを内省する場を設定することで，社会科でめざす生徒の姿に近づけていくことができるものと考えている。

思考ツールを活用した情報・思考の可視化 **B**

学習課題に対して，自分の考えを根拠をもとに明らかにすることは，合理的意思決定能力の育成をめざし，社会認識を深めることをめざす社会科において重要な要素である。それとともに，民主主義社会を担う主権者の育成を目標とする本教科において，自らの経験や他者との関わりから社会的事実を探究する資質や能力の育成は重要である。

本授業においては，思考ツールを組み入れたワークシートを活用し，情報や思考を可視化することで，合理的意思決定の能力の育成を図りたい。自己の考えを文字として記述しまとめることで，わかること

・わからない、はっきりしていること・していないことなどが明らかになり、さらにグループ等で価値判断をめぐる議論の正当性を吟味する協働の場を設定することで、社会認識が深まることを期待する。しかし、思考スキルの習得のみに主眼がおかれてはならないのであって、あくまでも思考力を高めるための手段であって目的ではないということを生徒に指導した上で、学習に取り組ませたい。

また、単元の学習途中や終末にあたって、これまでの記述をもとに、学習課題に対する自己の考えをまとめる場を設けることで、社会認識を深まったことを実感させたい。

3 単元の目標

世界と比べた日本の地域的特色に対する関心を高め、課題解決に必要な情報を適切に選択・活用して、世界的視野や日本全体の視野から見た我が国の国土の特色について理解させるとともに、学習課題に対して多面的・多角的に考察し、適切に表現することができる。

4 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
㊦世界と比べた日本の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	㊦世界と比べた日本の地域的特色を、世界的視野や日本全体の視野から見た自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、地域間の結びつきをもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ㊧首都機能移転に対する価値判断とその理由について、適切に表現している。	㊦世界と比べた日本の地域的特色に関する様々な資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	㊦世界と比べた日本の地域的特色について、世界的視野や日本全体の視野から見た自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、地域間の結びつきを理解し、その知識を身につけている。

5 単元指導計画 (全 10 時間)

	学 習 事 項	主な学習活動 ・ 手だて	評 価			
			関	考	表	知
1 事 実 認 識	現在の国土の特色から、未来の日本の姿を明らかにしよう。■ ・世界の地形 ・世界からみた日本	日本で自然災害が多い謎を解明しよう。	㊦			
		・世界の地形の一般的に共通性して見られる特色と、日本	㊦	㊦	㊦	㊦

		<p>の地形</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界からみた日本の気候 自然災害と防災 	<p>に見られる地域的特色およびその成り立つ要因を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界に共通してみられる気候の特色と、日本の気候の特色およびその成り立つ要因を確認する。 日本の自然環境が日本人の生活に与える影響と、その対策について確認する。 			⑦	⑦		
3	4	<ul style="list-style-type: none"> 世界の人口の分布と変化 日本の人口分布と課題 	<p>日本の人口問題のメカニズムを解明しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界的に見た日本の人口の特色と、日本国内における地域的な人口の特色を確認する。 日本の人口構成の(予測を含めた)推移から、懸念される問題を読み取り、これからの日本社会に与える影響を確認する。 	⑦		⑦	⑦		
5	6	<ul style="list-style-type: none"> 日本の資源とエネルギー 産業の構成と変化 交通・通信発達と国際化 日本国内の交通・通信 	<p>日本の産業構造が変化してきた社会的背景を解明しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界的に見た日本の産業の特色と、日本国内の産業の地域的特色を確認する。 エネルギー政策、交通・通信の発達、国際化など社会の変化は、日本の産業構造にどのような影響を与えたのか確認する。 	⑦		⑦	⑦		
7	8	9	10	概念探求	<ul style="list-style-type: none"> 国土の特色と今後の国土のあり方について総合的に考える 	<p>首都機能移転を通して、未来の日本の姿を明らかにしよう。</p> <p>—首都機能を東京から移転すべきである、是か非か—</p> <ul style="list-style-type: none"> 首都機能移転の概念について学習し、学習課題の争点を確認する。 首都機能移転によるメリット、デメリットについて資料をもとにワークシートにまとめ、全体で確認する。■ 学習課題に対する自分の立場を選択し、その理由をワークシートに記述する。■ 首都機能移転に関する諸政策の項目を、数値化して評価する。■ 数値化した結果を受け、課題に対する自分なりの考えをグループ内で交流する。■ グループ内での意見交流を通して、課題に対する自分の立場を改めて選択し、その理由をワークシートに記述する。■ 単元の学習を振り返り、ワークシートに自分の考えを記述する。 	⑦		⑦
		価値分析				④	④		
		判断				④	④		
		操作				④	④		

5 単元指導計画(統制群) (全 10 時間)

		学 習 事 項	主な学習活動 ・ 手だて	評 価
				関 考 表 知

1 2 3 4 5 6	事 実 認 識	現在の国土の特色から、未来の日本の姿を明らかにしよう。■	○					
		<ul style="list-style-type: none"> 世界の地形 世界からみた日本の地形 世界からみた日本の気候 自然災害と防災 	日本で自然災害が多い謎を解明しよう。	○	○	○	○	○
		<ul style="list-style-type: none"> 世界の地形の一般的に共通性して見られる特色と、日本に見られる地域的特色およびその成り立つ要因を確認する。 世界に共通してみられる気候の特色と、日本の気候の特色およびその成り立つ要因を確認する。 日本の自然環境が日本人の生活に与える影響と、その対策について確認する。 		○				
3 4		世界の人口の分布と変化	日本の人口問題の構造を明らかにしよう。	○			○	
		日本の人口分布と課題	<ul style="list-style-type: none"> 世界的に見た日本の人口の特色と、日本国内における地域的な人口の特色を確認する。 日本の人口構成の(予測を含めた)推移から、懸念される問題を読み取り、これからの日本社会に与える影響を確認する。 	○	○	○		
5 6		日本の資源とエネルギー	日本の産業構造が変化してきた社会的背景を解明しよう。	○			○	
		<ul style="list-style-type: none"> 産業の構成と変化 交通・通信発達と国際化 日本国内の交通・通信 	<ul style="list-style-type: none"> 世界的に見た日本の産業の特色と、日本国内の産業の地域的特色を確認する。 エネルギー政策、交通・通信の発達、国際化など社会の変化は、日本の産業構造にどのような影響を与えたのかを確認する。 	○	○	○		
7 8 9 10	概 念 探 求 認 識 価 値 分 析 判 断 操 作	<ul style="list-style-type: none"> 国土の特色と今後の国土のあり方について総合的に考える 	<p>首都機能移転を通して、未来の日本の姿を明らかにしよう。</p> <p>—首都機能を東京から移転すべきである、是か非か—</p> <ul style="list-style-type: none"> 首都機能移転の概念について学習し、学習課題の争点を確認する。 首都機能移転によるメリット、デメリットを資料をもとにワークシートにまとめ、全体で確認する。■ 学習課題に対する自分の立場を選択し、その理由をワークシートに記述する。■ ディベート的な話し合いを通して、与えられた立場から自分の立場の正当性を主張する。■ ディベート的な話し合いを通して、最終的な学習課題に対する自分の立場を選択し、その理由をワークシートに記述する。■ 単元の学習を振り返り、ワークシートに自分の考えを記述する。 	○	○	○	○	○

6 本時案

(1) 本時の目標

グループ内での話し合いを通して、各属性を数値で評価した課題に対する考えを再吟味し、それをもとに最終的な自分の立場とその理由をワークシートに記述することができる。

(2) 本時の展開 (本時 9 / 10) (○…発問, △…補助発問, □…指示, 説明)

主な学習活動 (下位目標)	教師の働きかけ・ 手立て	【評価方法】・備考																		
<div data-bbox="252 456 1083 555" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>首都機能移転を通して、未来の日本の姿を明らかにしよう。 A 一首都機能を東京から移転すべきである是か非かー</p> </div> <p>1 各属性の評価(数値)とその理由を、グループ内で発表することができる。</p> <div data-bbox="188 931 624 1193" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>話し合いの目的 ・考えを広げる(いろいろな見方、考え方があることを意見交流を通して知る) ・考えを深める(ひとつの考えに対して、多くの理由や考え方を付加する) ・話し合いを通して、わかることとわからないことがはっきりする ・課題(属性)に対する考え方を共有する ・(発展型)歩み寄りの条件を考えながら、議論をさらに深め、より多くの人が納得できるものに(合意形成)する</p> </div> <p>2 グループ内での話し合いを終え、以前に行った各属性の評価とその理由を見直し、ワークシートに記述することができる。</p>	<div data-bbox="655 589 1123 918" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>□自分が評価した数値を、グループ内で考えを深めてみよう。 B △班長の司会で、考えの違いが大きいものから、その違いの理由を発表し合おう。 △グループの人が評価した数値やその理由を聞いて、参考になるものはメモを取るなど、自分の考えと比べながら発表を聞こう。</p> </div> <div data-bbox="655 931 1123 1283" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>話し合いの進め方 ①班長が司会をする ②班長から発表する ③発表が終わるまで聞き手は発言しない ④自分がつけた得点とその理由を、聞き手に伝える事を意識して発表する ⑤発表を聞いている人は、自分の観点やその理由とを比較しながら聞く(必要であればメモを取る) ⑥時計回りに次の人が発表する ⑦全員の発表が終わったら、班長の司会で、考えの違い(差)が大きい(はっきりしている)観点(属性)から順に話し合いをする ⑧話し合いを終えた後、最終的な自分の考えをまとめる(それまでの自分の考えは消さず、付加する)</p> </div> <p>□グループ内での話し合いを終え、最終的な各属性の評価とその理由をワークシートにまとめてみよう。 B △以前に書いた自分の考えは消さずにそれに付加して考えを記述しよう。</p>	<p>・課題提示</p> <p>【ワークシート・発言】</p> <p>【ワークシート】</p>																		
<table border="1" data-bbox="220 1514 1083 1809" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>国政全般の改革</th> <th>東京一極集中の是正</th> <th>災害対応力の強化</th> <th>財政的・経済的観点</th> <th>環境への配慮</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>首都機能移転に賛成</td> <td>・東京中心の考え方が見直され、地方が活性化される。</td> <td>・東京の人口過密状態が解消される。</td> <td>・災害に強い都市を建設することにより、政治的自由がなくなる。</td> <td>・財政負担は少なく、経済効果が期待できる。</td> <td>・人と環境が調和した新しい時代にふさわしい新しい首都となる。</td> </tr> <tr> <td>首都機能移転に反対</td> <td>・政治と経済の中心が分離することにより、国際競争力が低下する。</td> <td>・集中していることによって、便利であり、効率的である。</td> <td>・日本に絶対安全な場所はない。</td> <td>・既存の施設を活用した方が、経済的である。</td> <td>・新首都の建設は、新たな環境破壊を引き起こす。</td> </tr> </tbody> </table>		国政全般の改革	東京一極集中の是正	災害対応力の強化	財政的・経済的観点	環境への配慮	首都機能移転に賛成	・東京中心の考え方が見直され、地方が活性化される。	・東京の人口過密状態が解消される。	・災害に強い都市を建設することにより、政治的自由がなくなる。	・財政負担は少なく、経済効果が期待できる。	・人と環境が調和した新しい時代にふさわしい新しい首都となる。	首都機能移転に反対	・政治と経済の中心が分離することにより、国際競争力が低下する。	・集中していることによって、便利であり、効率的である。	・日本に絶対安全な場所はない。	・既存の施設を活用した方が、経済的である。	・新首都の建設は、新たな環境破壊を引き起こす。		
	国政全般の改革	東京一極集中の是正	災害対応力の強化	財政的・経済的観点	環境への配慮															
首都機能移転に賛成	・東京中心の考え方が見直され、地方が活性化される。	・東京の人口過密状態が解消される。	・災害に強い都市を建設することにより、政治的自由がなくなる。	・財政負担は少なく、経済効果が期待できる。	・人と環境が調和した新しい時代にふさわしい新しい首都となる。															
首都機能移転に反対	・政治と経済の中心が分離することにより、国際競争力が低下する。	・集中していることによって、便利であり、効率的である。	・日本に絶対安全な場所はない。	・既存の施設を活用した方が、経済的である。	・新首都の建設は、新たな環境破壊を引き起こす。															
<p>3 課題に対する最終的な判断(立場)とその理由を、ワークシートに記述することができる。</p>	<p>□自分が選択した立場と選択肢の順位及びその理由を踏まえ、最終的な課題に対する自分の立場とその理由をワークシートにまとめてみよう。 △選択した自分の立場と、選択肢の属性の合計順位に違いはないだろうか</p>	<p>【ワークシート】</p>																		

6 本時案

(1) 本時の目標

ディベート的な話し合いやグループ内での話し合いを通して、課題に対する考えを再吟味し、最終的な自分の立場とその理由をワークシートに記述することができる。

(2) 本時の展開 (本時 9 / 10) (○…発問, △…補助発問, □…指示, 説明)

主な学習活動 (下位目標)	教師の働きかけ・ 手立て	【評価方法】・備考
<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">首都機能移転を通して、未来の日本の姿を明らかにしよう。 A 一首都機能を東京から移転すべきである是か非かー</p> <p>1 ディベート的な話し合いの場において、自分の立場の正当性を論理的に主張することができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>賛成派 立論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京中心の考え方が見直され、地方が活性化する。 ・東京の人口過密状態が解消される。 ・災害に強い都市を建設することにより、政治的空白がなくなる。 ・財政負担は少なく経済効果が期待できる。 ・人と環境が調和した新しい時代にふさわしい新しい首都となる。 <p>反駁</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過密から派生する問題の方が深刻である。 ・環境に配慮した開発なので、環境破壊にはあたらない。 ・一極集中することが、国土全体の発展につながらず、国際競争力を低下させる。 </div>	<p style="text-align: center;">B</p> <p>□課題に対して、与えられた自分の立場からその正当性を主張してみよう</p> <p>△自分たちの主張の正当性が、聞き手にも伝わるように意識して発表しよう。</p> <p>△評価する人は、ワークシートの観点到ってそれぞれの主張を聞こう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>反対派 立論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政治と経済の中心が分離することにより、国際競争力が低下する。 ・集中していることにより、便利であり、効率的である。 ・日本に絶対安全な場所はない。 ・既存の施設を活用した方が、経済的である。 ・新首都の建設は、新たな環境破壊を引き起こす。 <p>反駁</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政負担は当初より増えており、金額の多少ではなく現在の日本には財政的な余裕はない。 ・現在、防災機能を高めるために諸施設を建設している。 ・政治と経済、様々な機能が集まることにより、国際的な影響力は維持される。 </div>	<p>・課題提示</p> <p>【ワークシート・発言】</p>
<p>2 ディベート的な話し合いを終え、グループ内で課題に対して、班長を中心に話し合いをすることができる。</p> <p>3 課題に対する最終的な判断(立場)とその理由を、ワークシートに記述することができる。</p>	<p>□ディベート的な話し合いを終えて学習課題に対する考えをグループ内で深めてみよう。</p> <p>△それぞれの立場の主張を聞いて、今後のあるべき姿について、立場を離れて考えを交流してみよう。</p> <p>△どの価値をどのような理由から重視するのか、班長が司会をして交流してみよう。</p> <p>□ディベート的な話し合いとその後のグループ内での話し合いを終え、最終的な課題に対する自分の立場とその理由をワークシートにまとめてみよう。</p>	<p>【発言】</p> <p>・指名計画</p> <p>【ワークシート】</p>